

日本学術会議

政治学委員会比較政治分科会（第24期・第6回）議事要旨

開催日時 2019年4月25日（木）15時30分～17時5分

開催場所 国際文化会館403セミナー室

出席者 眞柄秀子、河田潤一、小川有美、大串和雄、磯崎典世、羽場久美子、高橋百合子、藤井篤の8名。

議事概要

1. 4月総会の重要テーマについて

眞柄委員長より、人文社会分野の研究業績の評価方法をめぐって、研究発表の媒体となるジャーナルや出版社について、各分科会委員に対してアンケートが近日中に実施されるとの報告があり、審議の結果、各自の判断で回答することになった。

眞柄委員長より、統計不正問題に対する学術会議の対応を、統計学、経済学、政治学の分野で検討していくことが報告された。

2. 比較政治分科会の今期活動について

6月開催予定の日本比較政治学会研究大会での学術会議と学会の共同企画パネル（自由企画1「世界の自由民主主義の退行を考える一中・東欧とラテンアメリカの経験から」）について、準備が順調に進んでいるとの報告が大串委員よりあった。

眞柄委員長より、分科会会議開催予算の逼迫状況が説明され、今後の会議の運営方法が検討されるとともに、必要な場合には、古城佳子政治学委員長に政治学委員会内部での調整を要請する可能性もあることを確認した。

3. その他

眞柄委員長より、2012年から開始される高校の新教科「公共」を進める上でアクティブ・ラーニングに適切なテーマを10月総会までに提案してほしい旨の要請があった。

4. 次回分科会開催日程について

次回分科会会議は比較政治学会研究大会に合わせて2019年6月29日に開かれることになった。